

共生・公正・創造



# ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合  
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号  
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290  
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治



## “テロリストに乗っ取られた”JR東日本の真実”

### 「マングローブ」ダイジェスト版 第15回

あの「週刊現代」連載記事が【マングローブ】という本になった。本紙は筆者（西岡研介氏）の了解を得て、『謎に包まれた非合法集団とJR東日本の抜き差しならぬ関係』をダイジェスト版として紹介することとした。

## オウム警戒中のハプニング、盗聴事件

95年12月13日の深夜、東京都北区の路上に、複数の男女を乗せた一台の車が止まっていた。その年の3月、オウム真理教が死者12人、負傷者5510人という日本犯罪史上最悪のテロ事件「地下鉄サリン事件」を起こし、5月には教祖の麻原彰晃こと松本智津夫が逮捕された。しかし麻原逮捕後もまだ、教団幹部が逃亡を続けていた。警察庁は、警視庁をはじめとする毎週府県警に、引き続きオウム警戒を指示。それを受けた各警察が巡回警備を強化する。95年12月といえば、そんな時期だった。

そんな折も折、深夜にもかかわらず、複数の男女が乗ったままの車が、何時間も路上に停車していれば、誰もが不審に思っただろう。パトカーで巡回中だった二人の警察官は、迷うことなく、車内の男女三人に職務質問をしたという。「その際、車の中から録音機のようなものが見つかったため、滝野川署で車の中を調べたところ、車の中から盗聴道具一式が見つかったのです。翌日、滝野川署からの連絡を受けた警視庁公安部が、付近を捜索したところ、現場近くで、盗聴用の発信機が見つかった。…」(捜査関係者)

一般的に電話の盗聴には、電話機に盗聴用の発信機を仕掛けるという手法が多用される。しかしこの犯人グループは電話線に直接、発信機を仕掛けていたのだ。この手法は、彼らがきわめて高度な技術力を有していることを示していた。その発信機が仕掛けられていた電話線は、電柱からさらに数十メートル離れた豊島区駒込のマンションの一室に繋がっていた。その部屋は、当時、「鉄労友愛会議」議長を務めていた瀬藤功氏(当時59歳)の自宅だった。

87年のJR発足を前に、それまで激しく対立してきた動労と鉄労が和解し、JR総連の前身「鉄道労連」が結成された。「鉄労友愛会議」は、鉄道労連結成に伴い解散した鉄労の清算団体で、当然のことながら旧鉄労組合員で組織されている。だが、JR東日本では90年代に入って、旧鉄労系組合員による反乱が相次いでいた。93年12月には東北の要所・仙台で、約100人の旧鉄労組合員が、松崎ら旧動労幹部による「独善的な組織運営」に反発し、JR東労組仙台池本を脱退、新組合「JR東新労」を結成した。2年後の95年12月23日にはJR東労組の約800人の旧鉄労系組合員が、新潟支社を中心に集団脱退し、新組合「JRグリーンユニオン」を立ち上げたのだ。これら新組合立ち上げの動きに対し、JR東労組と癒着していたJR東日本経営側は、新組合の役員に対し、突然の遠隔地への異動や出向命令を下すなど、不当労働行為を乱発。徹底した組合潰しを行うのである。特に新潟での会社側の組合潰しは熾烈を極めた。本社役員と新潟支社幹部、JR東労組新潟地本の三役が合同会議を開催し、「新組合結成阻止」で一致。労使共同で徹底した「グリーンユニオン潰し」を行い、結成当初は約800人だったJRグリーンユニオンの組合員は200人まで切り崩されたのだ。そして、「JR東日本とJR東労組による労使一体となったこの「グリーンユニオン潰し」に多大な貢献をした組織があった。松崎が最高幹部を務める革マル派である。

...

【マングローブ(講談社)P.209~P.212】